小学校　国語

問題 三 2(2)　叙述を基にした想像　通過率52.2%

この設問は，継続的に叙述を基に登場人物の心情の変化を捉える力に課題が見られるため，今年度新たに「変化した気持ちについて三人の児童が叙述を基に想像したことを話し合っている」場面を設定し，問い方や答え方を変えて出題した問題である。

三　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

〔これまでのあらすじ〕

ひと月近く前に、おじいちゃんの住む村に引っこしてきたばかりの和彦は、同級生となった涼太と二人で釣りに行った。和彦は、今まで釣りをしたことがない。そのため、釣りが上手な涼太は、おじいちゃんから和彦に釣りの仕方を教えてやってほしいとたのまれている。

二時間すぎたけど和彦のビクは、まだからっぽのままだ。いっぽう涼太には、すでに二十ぴき近い山女魚と岩魚がおさまっていた。

和彦が、もう魚釣りなんかどうでもいいような気分で、水から頭を突っこんでいる小岩のそばに目印をほこらんだときだった。ググッと大きな手ごたえが竿さきがひんまがった。

「釣れたぞー釣れたぞ、涼太くん！」

和彦はあわてかげんに竿をあおり、大声でよびかけた。

「よし、にがすなよ、和彦。」

むこう岸に近いところで釣っていた涼太が、こちらへ足をはこびだす。

和彦が竿をおこしても竿は大きくしなって、魚を水からぬきだすことができない。手もとにブルブルと引きがつたわってくる。セルロイドが、水面すれすれのところで波にもまれている。

「そいつは大きいぞ。あわてるなよ、和

いいっつ、かたわらに立った涼太が

「竿をたおすなよ。たおしたら魚が糸を

さしずをしている。

「そのままゆっくり下流へあるけ。あの

「わかった。」

および腰で水ぎわから竿をあやっって

にふみこんでしまっている。足がつめた

「そうそう、そのまま竿をおこして下流

を吸収してくれて、魚はにげやしないから。」

ようやっと和彦が、澄んだ水たまりに魚をさている。

針をくわえたままおよぎまわっていた魚が、いらさせている。

「ひゃーあ、ものすごく大きいじゃないか。」

涼太が目をまんまるにして、うわずった声をあげた。

また、竿がギュンとしなった。そいつが水のなかを走りまわる。水っている糸が、はげしくうごきた。

「涼太くん、あみで、タモあ

すると涼太は、

「じぶんですくえ。」

そういって、腰からぬいた。

和彦は左手であみを受け取り、魚を弱弓に岸へよせてみた。

い。魚は浅瀬でバシャバシャ水をはねちらかしている。和

あばれまわる魚をなんとかあみに取りこんだ。

「やったな、和彦。はははは。」

それは、三十センチもある、大きな岩魚だった。

「すごい、すごい。おれが釣った山女魚や岩魚よりも、はるかに大きいじゃないか。」

「へえ、ほんとか。」

スニーカーも、ズボンのひざから下もびしょぬれになったけど、

びがふくれみちてきた。

（吉本直志郎　「眠りをなくした子どもたち」による。）

苦労しながらも一人でがんばっている様子

涼太に教えてもらいながら，初めての釣りをがんばっている様子

最後まで一人で釣らせようとしている

気持ちの変化

釣りの上手な涼太もびっくりするほど大きな魚

二人の関係

一人でがんばって釣った和彦をほめている

2　次の［　　］の中には、この文章に表れている和彦の気持ちについて話している三人の児童の会話が書かれています。あとの（1）・（2）の問いに答えましょう。

山田　「和彦は、最初全然釣れなくて、もう魚釣りなんか【　ア　】だったけど、最後は、岩魚が釣れてうれしいという気持ちになったね。『和彦の胸によろこびがふくれみちてきた。』というところから分かるよ。」

田中　「わたしは、釣れてうれしいという気持ちは、一人でやっと釣り上げることができたからうれしいという気持ちだと思うよ。和彦は、涼太から『じぶんですくえ。』と言われて、あばれまわる魚を苦労しながら一人で釣ったんだものね。」

高橋　「ぼくは、［　イ　］からうれしいという気持ちもあると思うな。『すごい、すごい。おれが釣った山女魚や岩魚よりも、はるかに大きいじゃないか。』『へえ、ほんとか。』という二人の会話から分かるよ。」

（2）［　イ　］には、和彦のうれしいという気持ちの理由が入ります。あとの文に続くように書きましょう。

	主な解答例	割合（%）
○	（例）涼太が釣った魚よりもはるかに大きな岩魚を釣ることができたし，それを涼太にほめられた	4.2
	（例）涼太が釣った魚よりもはるかに大きな岩魚を釣ることができた	18.3
	（例）涼太にほめられた，涼太にすごいと言ってもらった	6.1
△	（例）大きな岩魚（魚）を釣ることができた	23.6
×	内容は合っているがあとの文に続かない表現のもの	4.4
	上記以外の解答	35.2
無解答	―	8.3

通過率は，52.2%だが・・

直前の「大きな岩魚だった。」という叙述からしか想像できていない児童が23.6%いる。

文章全体から叙述を関連させて想像できている児童は，4.2%しかいない！

なぜうれしいという気持ちに変化したのかという理由を叙述を基に想像することができていない。

何が問われているのか，どう答えたらよいのかが分からない。

内容の系統

第1・2学年　読むこと
・場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

第3・4学年　読むこと
・場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の性格や気持ちの変化，情景などについて，叙述を基に想像して読むこと。

第5・6学年　読むこと
・登場人物の相互関係や心情，場面についての描写をとらえ，優れた叙述について自分の考えをまとめること。

提案　複数の叙述を探す習慣を付けさせましょう。

○　前後の記述だけ（その場面だけ）で考えさせるのではなく，作品全体から想像させましょう。その際には，
　・気持ちの根拠となる叙述を複数見付けさせるようにしましょう。そして，その叙述を関連させて考えさせましょう。
　・登場人物の性格や境遇，状況なども把握させ，関係性からも考えさせましょう。

○　なぜそのように想像したのかという理由を交流させることで考えを深めさせましょう。

このような交流をさせましょう！

先生　：　和彦の気持ちはどうなったでしょう。

児童　：　最初は「もう魚釣りなんかどうでもいいような気分」だったけど，岩魚が釣れてうれしいという気持ちになりました。

先生　：　それはどこから分かるかな？

児童　：「和彦の胸によろこびがふくれみちてきた」というところからです。

先生　：　うれしい気持ちは岩魚が釣れたからだけかな？もっと他にはないかな？